

— 獣医療とコミュニケーション (XXIII) —

JGAP 畜産とコミュニケーション

白戸綾子 (JGAP 上級審査員, 農場 HACCP 主任審査員)
堀北哲也[†] (日本大学生物資源科学部獣医学科
獣医産業動物臨床学研究室)

私, 白戸綾子は, (独)家畜改良センターの牛・豚・綿羊・山羊の育種牧場に長年勤務し, 定年退職後, 農場 HACCP や JGAP の認証審査, 研修講師等をしています。今回, GAP とコミュニケーションというテーマで, 堀北さんと対談する機会をいただきました。GAP って何? GAP って難しいのでは? と思っている方に, 少しでもギャップを埋めていただけたら幸いです。



白戸綾子



堀北哲也

堀北: HACCP は教科書にも載っていて, ある程度内容は把握しているのですが, GAP は名前は聞いたことはあるのですが内容はよく知りません。そもそも, GAP って何ですか?

白戸: GAP は, Good Agriculture Practices の頭文字をとったものです。直訳すれば, 「よい農業の実践」ですが, 「適正農業規範」「農業生産工程管理」などと訳されています。農業の持続可能性を確保するために, ①食品安全, ②人権の尊重, ③労働安全, ④環境保全, ⑤適切な農場運営, さらに畜産では, ⑥家畜衛生, ⑦アニマルウェルフェアの7つの視点で, 農業者が何をすべきか, 具体的な項目と取り組むべき内容が示されています。

堀北: 農場 HACCP と似ているような気がしますが, その相違は後ほどお聞きするとして, GAP には国際的な標準や基準というものがあるのですか?

白戸: 先ほどの畜産であれば7つの視点で基準を作ると

いう共通した考え方はありますが, 世界各国の民間団体がそれぞれに基準を作り, 認証制度を管理しています。例えば, Global G.A.P. はドイツに本部のある Food PLUS が運営しており, 日本国内でも認証を受けている農産物農場があります。日本では, 一般財団法人日本 GAP 協会が, 農産と畜産に関する基準書を公表し, 認証制度を運営しています。「JGAP 畜産」の農場用の基準書 (図1: <https://jgap.jp/jgap/livestock/>) には, 116 項目の管理点とそれぞれの適合基準が書かれています。例えば, 「1. 農場管理の見える化」では6つの管理点が設定されており, 管理点1.2「地図の整備」では, 「リスク評価に活用するために, 少なくとも畜舎や倉庫, 廃棄物保管場所, 水源等の情報を記載した地図を作成している」が適合基準なので, それらを用意します。2017年に畜産の基準書が公表されて6年ほど経ちますが, JGAP 畜産の認証取得農場は年々増加しています (図2)。日本の畜産事情を踏まえた基準なので, 取り組みやすいと思います。

堀北: そうなんですね。ベースとなる7つの視点は世界共通ですが, それをどう実現するかという具体的な項目は国によって違うのですね。日本でも JGAP 畜産の認証を取得する農場は年々増えているということですが, GAP とは認証を取るってなんですか?

白戸: いいえ, 農林水産省では「GAP をする」と言って, あらゆる農場に GAP への取組を推奨しています。「GAP をした」時に, 第三者の審査を受けて認証を取得するかしらないか, それは個々の経営者の判断です。

[†] 連絡責任者: 堀北哲也 (日本大学生物資源科学部獣医学科獣医産業動物臨床学研究室)

〒252-0880 藤沢市亀井野 1866 ☎0466-84-3423 E-mail: horikita.tetsuya@nihon-u.ac.jp

共通項目	
1	農場管理の見える化
2	経営者の責任
3	人権の尊重と労務管理
4	教育訓練・入場者への注意喚起
5	外部組織の管理
6	商品管理
7	生産工程におけるリスク管理
8	作業員および入場者の衛生管理
9	労働安全管理および事故発生時の対応
10	設備・機械等の管理
11	エネルギー等の管理, 地球温暖化防止
12	廃棄物の管理および資源の有効利用
13	周辺環境・生物多様性への配慮

畜産専用項目	
L1	家畜の飼養管理
L2	家畜排せつ物の管理
L3	動物用医薬品の管理
L4	水の管理
L5	精液・受精卵・導入家畜の管理
L6	飼料の管理
L7	敷料の管理
L8	識別管理

自給飼料専用項目	
F1	草地等の立地に関する管理
F2	種苗の管理
F3	農薬・肥料等の管理
F4	環境保全を主とする取り組み
F5	飼料生産工程の情報管理

図1 JGAP 畜産 農場用管理点と適合基準の目次

GAPと聞くと、何だか難しいように思われてしまうのですが、「JGAP 畜産」基準書の中身を読めば、日本の畜産生産者なら普通に取り組んでいるような内容が多くあります。「年1回以上、飼養衛生管理基準の実施状況を確認すること」「精液・受精卵・家畜を導入したら、記録（納品書等）を保管すること」「出荷前の家畜が休薬期間中でないことを確認すること」等々、畜産経営の持続性を高めるために、どんなことに留意したらよいか、何をしたらよいかなどポイントを絞って具体的に示しています。農場の現状を一度チェックしてみて、不足している取組や農場が課題だと思っている項目の改善から始めることをお勧めしています。

堀北：普段の飼育管理で実践していることや気を付けていることがそのまま GAP につながり、しかも日常の管理における改善点や実施すべきことのあぶり出しにもなるのですね。とはいえ、JGAP の認証を取ろうとするといろいろ大変だったり、取得した後も定期的

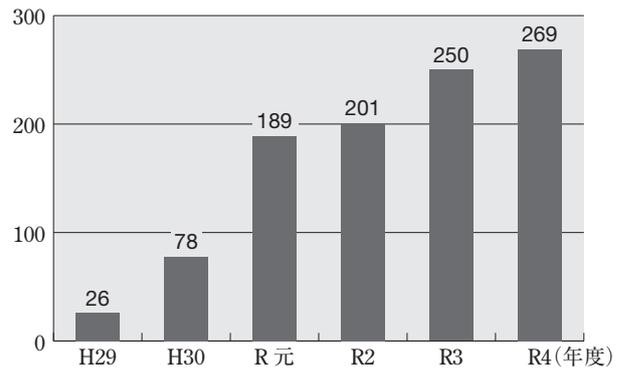


図2 JGAP 畜産の認証農場数（年度末）

に審査を受ける必要があったりとちょっとハードルが高いと思う人がいるかもしれませんが、そんな人たちが、わざわざ認証は取らないにしても、「JGAP をする」意義はありますか？

白戸：確かに大変さはあります。でも、GAP に取り組むことは、人、家畜、環境に配慮した、よりよい農場作りに役立ちます。畜産経営者は、本当に多くのことを考えなくては行けないですね。JGAP 畜産に取り組めば、やるべきことが明確になり、その負担を軽くすることができます。JGAP は、農場運営を助けるツールと思ってください。例えば、経営者が農場内を整理整頓したいと思っていても、廃棄物の片づけがなかなか進まない、という状況があるとします。JGAP に取り組み始めれば、「整理・整頓・清掃」という管理点に適合させるために、片づけを始めざるを得ません。たいていは、ただ片づけるだけじゃなくて、使い勝手がよいうように改善するアイデアが出てきます。現状を変えるきっかけを作って、農場の課題解決にも役立つので、多くの農場で、生産性の向上や危機管理対応に効果がみられます。

堀北：なるほど。JGAP の利点がよく分かりました。一方で、畜産の認証制度では農場 HACCP もあります。「農場 HACCP」と「JGAP 畜産」、両者にどんな違いがありますか？

白戸：農場 HACCP では、食品安全・家畜衛生の確保を主目的として、現状作業の明確化や危害要因分析を行って、生産工程を HACCP 計画で管理します。加えて、品質マネジメントシステムの考え方を取り入れて、内部統制や教育訓練が充実した農場管理の仕組みが確立されますが、それなりに、文書作成や記録に労力を必要とします。一方、JGAP は、食品安全や家畜衛生の目的は共通していますが、働く人の安全や、地球環境への配慮、アニマルウェルフェアの確保を目的とした内容が含まれています。浅く、広く、というイメージです。個々の項目ごとに、適合基準が平易な言

葉で具体的に書かれているので、農場 HACCP より始めやすいだろうと思います。

堀北：JGAP では、衛生管理を中心とした農場 HACCP よりも幅広い項目が設けられているんですね。人、動物（家畜）、環境の健康を考える One health に通じるものがあります。

白戸：そうです。SDGs とも関連する項目が多くあります。今は、持続可能性を重視する価値観が企業や消費者にも広がっていますから、JGAP は食品事業者にも注目されています。

堀北：とはいえ、生産者が JGAP 認証を取得したからといって、すぐに生産物が高く売れるということはないと思いますが、JGAP 認証を取ると、具体的にはどんなメリットがあるのですか？

白戸：まずは、GAP に取り組んでいることを、見える化できます。適切な農場運営や生産工程管理をしていることを、第三者からの認証書で示せるので、生産物の販売先や消費者からの信頼が高まります。確かに直接的に販売価格が上昇するようなことは期待できないのですが、認証取得によって新たな取引先として選ばれるようになります。認証取得を取引条件にしている例はまだ少ないのですが、東京オリンピック・パラリンピックや大阪万博では、食材の調達要件として JGAP が使われています。また、認証取得は、経営者や従業員の意欲が高まる効果もあります。さまざまな場面でよい変化を生み、事故率の減少、乳房炎の減少、増体率の増加、飼料効率の改善などが実際にデータとして把握されています。販売単価は変わらないけど、コスト低減は農場の収益アップにつながるはずで、JGAP 認証取得で、「適正な労務管理を行って働きやすさに配慮している農場」という評価を得ることは、従業員の新規採用や離職防止に大きな利点になります。JGAP を導入すると、農場の皆さんの意識が変わるのは確かです。

堀北：経営者や従業員といった「農場の皆さんの意識が変わる」のは、どうしてなのでしょう？何か仕掛けがあるのですか？

白戸：JGAP 認証を取得すると、審査を受けて認められた農場としてのプライドが生まれます。認証農場の名前は日本 GAP 協会や農水省から公表されるので、経営者も従業員も、外から見られていることを意識するように思います。希望する農場は、JGAP ロゴマークを表示して、認証取得を PR することもできます。認証を目指して JGAP の各項目に取り組む過程にも、農場内の意識を高めていく項目があります。「経営者

は、JGAP の取組に必要な農場管理の方針を文書化して、農場内に周知する」ことが求められます。もちろん、紙に書いた方針を示すだけで意識が変わるわけではないので、経営者・責任者には、従業員との日常的なミーティングや定例会議などを通して、農場内で JGAP に取り組む意識の醸成を図ることが求められています。

堀北：なるほど、どのような職種や職場でも日常的なミーティングはとても重要ですが、それを実施する仕組みになっているのですか？

白戸：農場によっては、従業員を集めて、「JGAP 始めるぞ！」とキックオフ・ミーティングをすることもあります。方針や目標を周知することで、農場で働く人の意識を同じ方向に向けられます。また、家畜衛生や飼養管理に関する教育・訓練も実施されるので、個々の作業の意味を理解することで、より適切に作業が行われるようになります。マニュアル等を作成して、作業の斉一性を高めている農場もあります。毎日の豚の観察でも、目的意識を持って豚を見れば、些細な変化にも気づくようになるでしょう。作業で起こり得る事故の危険性を知って、危険予知ができれば、労働事故の防止につながります。先ほどの整理整頓に関しては、乱雑な状態が当たり前だったのが、一度きれいにすることで、整理整頓が当たり前との認識が変わっていきます。

堀北：JGAP には、農場の皆さんの意識や行動が変わる仕組みが備わっているのですか？ということは、農場内の経営者と従業員の、あるいは従業員同士のコミュニケーションも変わりますか？

白戸：元々、コミュニケーションが活発な農場では、特に変わらないかもしれません。でも、変わる農場もあります。認証基準の中で、直接的にコミュニケーションに触れている管理点がいくつかあって、先ほどの方針の周知もそうですし、労務管理に関して、「経営者と労働者との間で、年 1 回以上、労働条件、労働環境、労働安全等について労働者が意見を伝えやすい環境を整えて意見交換を実施し、実施内容を記録すること」や、「家族間の十分な話し合いに基づく家族経営を実施していること」が適合基準になっています。外国人労働者がいる場合は、理解できる言語で労働条件を提示することや、理解できる言語や表現で教育訓練を行うことが求められます。また、生産工程や環境における食品安全・家畜衛生・労働安全に関するリスク評価では、「有効性を高めるために、責任者と作業者が共同で実施すること」となっています。

堀北：半ば強制的に、コミュニケーションを取るようになる？

白戸：そう感じられる場合もあるかもしれません。でも、まずは、コミュニケーションの「場」を作ることって大事ですよ。労務管理の年1回以上の意見交換の場では、休日を増やしてほしい等の要望も出てきますが、子豚の管理方法についての提案が出たり、設備の改修アイデアが出たりもします。場を設定して、発言しやすい環境を整えることで、コミュニケーションが促進されるって、ワークショップの基本と共通してるなあ、と感じます。

堀北：そうですね。「場」づくりはワークショップやコミュニケーションの要諦ですね。そのような場を作る仕組みがJGAPにはあるということですね。内部コミュニケーションについては分かりました。一方、農場と外部のコミュニケーションについてはどうですか？

白戸：JGAPの理念には、「サプライチェーンに関わるすべての食品事業者、消費者とのパートナーシップを構築し、持続可能な社会の実現に貢献します」と書かれています。畜産農場が、直接的に消費者とつながることは少ないですが、出荷した家畜や畜産物に関する苦情を想定して、対応責任者や対応手順を決めておくことになっています。農場の周辺地域において、住民や自然環境へ配慮することや、外部からの苦情があった時には記録すると言う適合基準もありますし、近隣地域で生物多様性を目的とした活動がある場合は参加することが推奨されています。畜産農場には常日頃から、獣医師を始め、人工授精師、飼料・動物薬等の供給者、農協、家保等々、実に多くの取引先や来場者があります。JGAPでは、来場者向けの注意事項を文書化して提示することになっているので、事前に配布したり、農場入り口に掲示したりします。伝達事項を文書化するのには、一見面倒なようですが、内容が明確になり、双方の安心感、信頼感にもつながります。

堀北：関係者や周辺の人たちといった外部とのつながりが、かなり密になるということですね。

白戸：外部とのコミュニケーションは促進されると思います。JGAP導入の当初は、外部のJGAP指導員の支援も欠かせません。家保や普及センターからJGAPに関する支援を受けたことで、JGAP以外の相談もしやすくなったとも聞きます。私の関わった小規模肉用牛農家の経営者からは、いつも一人で作業をしているけど、JGAPはチームで協力して楽しかったとの感想をもらいました。新しい取組をすることで、外部との関係性が拡張する効果も期待できます。審査に行っ

たJGAP認証農場では、教育ファーム活動や小中学校への出前授業、地域イベントへの出展、耕種農家と連携した循環型農業の実践、直営店舗での畜産物販売などの多彩な取組が見られます。

堀北：お話を伺っていると、認証農場は、元々、意欲的な農場が多いということでしょうか？

白戸：そうですね、わざわざ認証を取ろうと考える時点で、経営者には相応の意欲がありますね。

堀北：「経営者には」？ ということは、うがった見方をすると、経営者には意欲があるけど従業員には意欲がない場合もあるのかなと思いました。従業員も含めた農場全体ではどうですか？

白戸：最初から、農場一丸で取り組むのは難しいだろうと思います。農場の規模が大きければ大きいほど、従業員全体にJGAPの考え方、やり方を浸透させていくことは大変です。必ず、「GAPなんて役に立つのか？」と考える人や、従来の方法を変えることに抵抗を感じる人がいるのが普通だと思います。そこをどうやって、動かしていくか？ 仕事だから、業務命令だからではなく、やはりコミュニケーションですよ。まずは、相手の言うことに耳を傾け、言葉を受けとめて、理解に努める。その姿勢を相手を感じ取ってくれたと思ったら、今度は自分の言いたいことを伝える。そういうコミュニケーションができれば、農場の持続可能性も高まるだろうと思います。あ、JGAPの適合基準とは、また別な話ですけど。

堀北：白戸さんは、面識のない農場に、審査に行くんですよね？ 初訪問の農場とのコミュニケーションで気を付けていることってありますか？

白戸：利害関係のある農場の審査には行けないので、必ず初対面です。再訪するかどうかは分からず、基本的に一期一会です。農場側も緊張するでしょうが、審査員の私も相当ドキドキします。でも、なるべく緊張していないフリをして、笑顔で和やかに話すようにしています。審査に入る前に、天候や農場までの道すがらの光景、室内にある置物などの話題がアイスブレイクになります。審査の最初に、今日の審査で不適合の判定があっても、4週間以内には是正されれば認証取得可能なことを説明して、安心してもらいます。農場の方へのインタビューでは、話すペースを相手に合わせたり、分かりやすい言葉を使ったりすることを心がけます。不適合の指摘もしますが、第三者の目で見ると、その農場の優れた点をフィードバックするのも大事なことだと思っています。また、審査基準の意図を説明したり、JGAP畜産の最新情報を提供したりするなど、

JGAPへの理解を深めてもらうようにしています。認証取得後も、維持審査、更新審査とほぼ1年に1回、審査を受けることになります。審査員が来ることが、農場にとって意義ある機会になるようにしたいと思っています。ちなみに、農場 HACCP と JGAP の審査員には、私のように、定年退職した獣医師が多くおられます。獣医師としての多様な経験が活かせる仕事だと思います。

堀北：私の知り合いの獣医さんにも関わっている人がいらっしゃいます。審査員には、結構コミュニケーションスキルが求められますね。

白戸：そうだと思います。その点、獣医コミュニケーション研究会（NDK）、以前は農場どないすんねん研究会と言ってましたが、その会員として学んできたことが、とても役に立っています。傾聴と共感は、どんな時もコミュニケーションの基本ですし、短時間の接点でも、農場の方とのラポールが感じられる時があります。

堀北：農場 HACCP については聞く機会も多いのですが、JGAP については、あまり多くを知らませんでした。今日はいろいろと教えていただきありがとうございました。最後に、今後の JGAP について、どうなっていくと思いますか？

白戸：今は、畜産農場での動物虐待がニュースで報道されたり、植物性の代替肉がスーパーで手軽に買えるようになっていたりしています。畜産に対する一般消費者の見方は、いろいろな意味で厳しくなっていくように思います。今の JGAP 基準は生ぬるい、と批判されることもありますけど、食の安全・家畜衛生は言わずもがな、地球環境やアニマルウェルフェア、働く人の安全にも配慮した畜産を実践している農場である証として、JGAP 認証は有用だと思います。畜産物の買い手である加工・流通・販売業者への認知度は徐々に広がっていくでしょうし、補助事業等の採択要件に活用される可能性もあるでしょう。畜産農場自身が社会の変化に対応していこうという時に、JGAP 基準書の一つの拠り所やツールとして、活用してもらえたらと思います。